

## 当たり前前のごとが当たり前前ごできる

今年の夏は、例年通り、7月10日〜24日まで大相



名古屋北労働基準監督署長 野原敏裕 33

撲名古屋場所があり、8月7日〜21日までは夏の高校野球があった。さらに、今年は、高校野球と重なって8月5日〜21日までリオオリンピックが

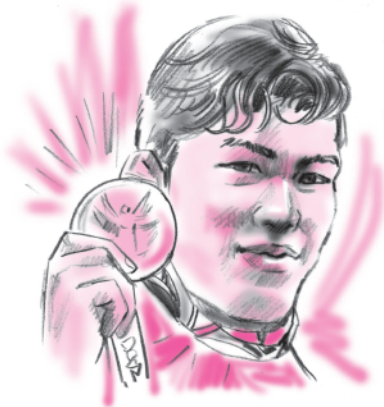
あり、スポーツ観戦が趣味の私にはたまらないひと月であった。

大相撲では、横綱が崩れたため、稀勢の里には優勝の絶好のチャンスであったが、12勝3敗に終わり18年ぶりの日本人横綱の誕生はならなかった。

また、高校野球では、愛知県代表東邦高校は3回戦で負けてしまったが、2回戦で、9回表まで9対5と、大きく負けていた試合を、9回裏に一挙5点を取ってサヨナラ勝ちした。最後まであきらめない高校球児の姿に感動し、久しぶりに高校野球の醍醐味を味わった。

そして、リオオリンピックでは、日本人選手が、過去最高の41個のメダルを取った。競泳、柔道、体操等々、毎日毎日テレビを見るのが大変だった。オリンピックでは、試合後の選手のインタビュ

ーを聞くのも楽しみの一つであるが、メダリストはいろんな名言を残している。古くは岩崎恭子の「今まで生きてきた中で、一番幸せです」とか有森裕子の「初めて自分で自分を褒めたい」、最近では北島康介の「チョー気持ちいい」などが有名だ



が、今回、私は、柔道男子73キログ級で金メダルを取った大野将平選手が「当たり前前のごとを当たり前前にできるよう、人一倍努力した」と言ったことが印象に残った。イチロー選手も「簡単なことほど奥が深く単純なことほど難しい」とか「今ま

でやってきたことを変わらずやり続ける」など同様のことを言っている。毎日の不断の努力により、技術が身につくとき、できて当たり前のごとがいつでもできるようになるということかと思うが、これは、一面、スポーツの世界の達人の言葉ともとれるし、

場合によっては、ビジネスの世界では、当たり前前のごとを当たり前前にやっていたのでは勝負にならないと言われる方もおられるかもしれない。しかし、当たり前前のごとが当たり前前にできるといことは、我々の日常生活や仕事の基本的な部分全てに通じる言葉だと思ふ。あいさつするとか、約束を守るとか、整理整頓するとか、手順通り作業するとか、誰が考えても普通にできて当たり前前のごとだが、これがなかなか難しい。いろんな状況の中で同じように

毎日できているかというところ、まずできていない。さらに、当たり前前にやってはいけないことをやっってしまうというのも我々凡人である。

日常生活や仕事の中で何が当たり前前かは人によって違うのかもしれないが、いずれも金メダリストの当たり前前に比べれば何ほどでもないと思う。遅ればせながら、私もなすべきことができる、してはいけないことはしない、そして、当たり前前のごとが当たり前前にできるような日々努力していきたいと思っている。

なお、2020年には東京オリンピックが開催される。その時は、テレビでなく実際に試合会場で応援したいと思っ

イラスト・森沢康代